

令和2年度（2020年度）第1回横須賀市政策評価委員会会議 会議概要

- 日時 令和2年（2020年）7月27日（月）14時00分～16時35分
- 場所 市役所本館3号館3階 302会議室
- 出席者 【委員】  
田丸委員長、牧瀬委員長職務代理者、  
安部委員、有吉委員、石垣委員、一條委員、川名委員、工藤委員、窪田委員、  
小林委員、櫻井委員、馬場委員、松尾委員（50音順）  
（欠席：宮崎委員）
- 【事務局】  
平澤経営企画部長、宮川都市戦略課長、佐野主査、太田主査、小坪
- 傍聴者 なし
- 資料
- ・ 資料1 横須賀市民アンケート報告書
  - ・ 資料2-1 重点施策：柱1 経済、産業の再興
  - ・ 資料2-2 重点施策：柱4 歴史や文化を生かした賑わいの再興
- 議事内容
1. 横須賀再興プラン（横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略）について
    - （1）柱1 経済、産業の再興
    - （2）柱4 歴史や文化を生かした賑わいの再興

## 概 要

### 14時 開 会

- 1 経営企画部長あいさつ
- 2 委員および事務局紹介
- 3 議事

#### (1) 柱1 経済、産業の再興

##### ○有吉委員

- ・ 今後、新型コロナウイルスの影響が、市の事業や社会全体に影響を及ぼすことが考えられます。行政が数値目標を立てるのは大切であると思いますので、新型コロナウイルスという外的要因がもたらす社会的影響、そのためにできなかった市の事業というものも含めて、次年度の委員会の在り方や指標の立て方などの検討が必要ではないかと思っています。

##### ○事務局(宮川)

- ・ コロナの影響をどう捉え、今後の数値目標や指標をどうするかといったところの検討については、我々としては、まだ考えを持っておりません。今の状況から考えますと、2021年に立てている数値目標を達成できる状況にはないと感じています。特に、観光については、ある程度見直しも含めて考える必要があると考えています。観光の数値は、観光立市推進基本計画の数値目標でもあるので、どの数字が妥当なのか、一緒にすり合わせて考えていきたいと思っています。現状では、まだどうするか考えをもっておりませんが、なんらかコロナの影響を考慮した評価について想定をしなければならぬと思っています。

##### ○窪田委員

- ・ 市民アンケートを、興味深く拝聴しました。例えば、10ページの「生まれてからずっと横須賀市に住んでいる」という設問について、他都市は、どのぐらいなのか。また、11ページの「横須賀市に引っ越してきた理由」の選択肢として、自然環境の良さなど、いろいろと挙げられていますが、他都市は、こういった比率がどうなっているのか、というものがあると、比較検討できる材料になると思います。
- ・ 私は、横浜銀行で神奈川県南部地域を担当しており、上大岡から三浦半島全体をカバーしています。神奈川県内には、横浜銀行の住宅ローンセンターが10数か所あり、横須賀にも住宅ローンセンターがあります。この4月から7月の住宅ローン受付け件数の実績が、前年度に比べて大きく伸びているのが、横須賀と湘南です。コロナ禍の状況だと、所得の不安が出てきて、大きな買い物は控える行動に出るのではないかと考えていたのですが、蓋を開けてみると、前年度から3割4割ぐらい増えています。
- ・ 横須賀の住宅ローンセンターは、三浦半島全体をカバーしているのですが、利用者状

況を確認してみると、ご利用になっているのが、圧倒的に横須賀市に住んでいる方です。コロナ禍で住宅価格がさらに安くなり、手が届くようになっていたことが、購買意欲につながっていると考えられます。

- ・ 逗子・葉山についても不動産人気が好調で、横浜や都内に住んでる方が、このコロナ禍で、やっぱり自然環境がいいところが良いとか、テレワークで月に数度出勤すればいいということで、この地域については、前年度比5割増ぐらいとなっています。
- ・ ここに何かヒントがあるのではないかと、非常に思っています。人口減少に対して、人口を増やしていくには、今までは、雇用につながるようなものを作って、定住促進するということがあったと思いますが、このコロナ禍においては、必ずしも横須賀で職に就かなくても、横須賀に住みたい人というは、かなり増えてきていると感じます。そして、この流れは加速するのではないかと思っています。
- ・ そういった意味では、他都市と比較ができると、よりアピールポイントになるものが見えてくるのではないかと思います。そうすることで、横須賀の良さ、横須賀の強み、横須賀のアピールとしての何かしらの解が見えてくるのではないかと思います。

#### ○事務局(宮川)

- ・ 我々も同じように、テレワークなどの広がりをチャンスととらえています。今回のアンケートについては、他都市で同じような項目のアンケートを行っているのかは、分かりません。ただ定住意向という点で、以前比較したところ、横浜や近隣市町と比べると、横須賀は定住意向が高い結果となりました。今後アンケートを実施する際には、他都市比較ができるかどうかについても考慮して、設問設計を検討したいと思います。今、横浜と隣接する8市の広域連携という枠組みがありまして、その中でも、他市比較ができるようなアンケートの設問設定ができるか検討していきたいと思っています。

#### ○櫻井委員

- ・ 私も窪田委員と同様に考えております。定住意向について少し調べてみたところ、例えば、海老名市だと90%ぐらいの定住意向があり、神奈川県だと73.5%程度が「住みやすい、今のところに住み続けたい」となっています。それに比べると横須賀は、市民アンケート結果で約69%なので、若干低めに感じています。
- ・ ただ、今、テレワーク等で、かなり三浦半島が見直されていると感じています。実は、楽天の公式の講師をやっているまして、特にPC講習の受講については、昨年度比150%の伸び率となっています。そのようなところからも、テレワークの広がりとともに、都心にも近い三浦半島に住んでもらうきっかけを創出することが、人口減少に効果的かと思っています。
- ・ また、テレワークという観点でいきますと、アドレスホッパーという方々が今増えていて、定住せずに、たとえば月7万円程度で登録し、日本中どこにでも様々なところに自由に住めるという仕組みが増えています。横須賀でいうと、空き物件が非常に多いと思うので、この仕組みを活用すると、定住じゃなくても、流動的に人が入ってくるのではないかと思います。
- ・ 資料2-1の9ページにあるECサイトについては、昨年の政策評価委員会で発言させていただいたのですが、ご存じの通り、巣籠り需要という中で、自宅からECサイトでお買い物する状況が広がり、今後もECサイトでのお買い物の機会が広がると思っております。

ます。こういった取組みは、これからもさらに進めていただきたいと思っております。

- ・ 神奈川県で取り組んでほしい分野、行政に対する要望というのがありますが、1位が防災、2位が治安、3位が高齢者福祉、4位が医療体制、5位に子育て支援となっています。5位以内に入ってくる点については、特に強化することが地域の魅力として売り込みやすいと思っています。また、横須賀のブランディングという点での、エンターテイメントや音楽などといったところは良いと思います。

#### ○川名委員

- ・ 窪田委員がおっしゃられた住宅の購入に関して、日頃感じていることを申し上げたいと思います。まず、住宅の購入の需要が増えているとおっしゃっていた点、本当にそうだと感じています。私の住んでいるところは、いわゆる旧分譲地といったところなのですが、平均年齢が70歳後半くらいの方々が多く、ちょうど代替わりの時期を迎えていて、住宅を手放していらっしゃるところが非常に多い状況です。そういった物件が不動産会社によって売り出されると、割と早く買い手がついている感じを受けます。新しく購入した人と話してみると、横須賀市内の方が多く感じ、アパートやマンションを賃貸で借りていた方、マンションを買っていた方が、市内から移動してくるケースが多いです。物件の価格的には、私の住宅の周りだと、大体40坪～50坪くらいで、2900万円台から3600万円台の物件を購入されています。先ほど、逗子のお話が出ましたが、逗子と比べると、費用が抑えられるようです。都会の方にとっても、逗子を一応見たけど、ちょっと手が出ないというような選択もあると思いました。
- ・ 櫻井委員に、最後にちょっと教えていただきたいと思います。アドレスホッパーをなされる方は、20代くらいの若い方が多いのでしょうか。また、家庭をお持ちになっている方もいらっしゃるのでしょうか。

#### ○櫻井委員

- ・ アドレスホッパーは、かなり幅広い年齢層でいらっしゃいます。独身の方のほうが多いかと思います。また、多数ではありませんが、夫婦でそれぞれアドレスホッピングしていることもあるようです。この辺りだと、佐島に朝、趣味の釣りに行って、そのまま佐島でアドレスホッピングするといったことができる環境にあると思います。

#### ○川名委員

- ・ 最後に付け加えます。最近、テレワークをしているお子さんが、都内から自宅に帰ってくるが見られるようです。都内だと、限られた狭いスペース（1K）で、10時間以上テレワークをして、自分でご飯を準備する時間もない状況に、親が心配して子どもを呼び戻すといったことがあるようです。こういった現状からも、テレワークの広がりや、今まで20代で横須賀を出て行った人が、横須賀に帰ってくるかもしれないと思いました。

#### ○有吉委員

- ・ 今後の評価のあり方については、未定ということなので、今後考えていただきたいと思います。
- ・ 窪田さんがおっしゃった三浦半島の住宅販売の伸びというのは、明るい話題だと思います。

ます。金融機関や不動産業者から聞き取りなどをして、市としてうまく情報発信できるのではないかと思います。具体的な数字を取りまとめて、何かしら市の補助制度と組み合わせて、それを市長会見などで打ち出すといったことをやっていただくと、三浦半島の明るい話題になると思いました。

#### ○窪田委員

- ・ 競争相手は、やはり千葉や埼玉だと思います。今、東京に住んで、東京で働いている人が、どこに住宅を求めるか。それを神奈川、特に三浦半島がひっばっていけるかというところが一番のポイントだと思いますので、千葉や埼玉と比較し、優位性をアピールしていくというのが、有効だと思います。特に、今は、SNS等でアピールをしていくことが大切だと思います。今後、横浜銀行もSNS戦略をやってこうと思っています。市としても、どの媒体でどんなプロモーションをするかという点を徹底的に強化していくことが必要なのではないかと思っています。実際に、都内のタワーマンションから、逗子に引っ越してくる相談が来ていますが、どこで調べたかという、基本的に「SNSやYouTubeで住宅を見て」といった流れになっています。今までにあまりない動きだと思うので、チャンスかと思っています。

#### ○有吉委員

- ・ 今年度の定住促進事業というのは、どういった感じですか。

#### ○事務局(宮川)

- ・ 今までやっていたバスツアーのような、定住促進という括りでのプロモーションは、今年度は行いません。

#### ○川名委員

- ・ 先日、地域おこしをやっている株式会社のSNSやZoomで、奈良の明日香村の古墳を観ていたのですが、結構都内の人も観ていることが分かりました。大体200人くらいです。観ていると行ってみたい気持ちになるので、SNSやYouTubeで横須賀の素敵な生活を投稿している人がクローズアップされるように仕掛けをして、横須賀の発信をするのもいいのではないかと思います。

#### ○馬場委員

- ・ このコロナ禍で、ワーケーションの需要が増えています。弊社もワーケーションについてはいろいろ考えているところです。ワークとバケーションといった視点から、もともとハワイだとか沖縄だとか、日常から離れた比較的距離のある場所での展開が考えられていました。ただ、今年に入ってコロナ禍でのアンケート調査によりますと、ワーケーションに向いているところとして3つあげられています。首都圏から1時間以内で交通の便が良いこと、自然が豊かであること、食が美味しいこと、といった特徴があげられています。この3つの特徴からも、横須賀市として、テレワークやワーケーションを含めたアピールができれば、定住人口の増加につながっていくのではないかと思います。

#### ○櫻井委員

- ・ 先ほどお伝えした調査で、73.5%が、神奈川県内の「今住んでいるところに住み続けたい」

という結果だったのですが、約10%は、神奈川県内で「ほかの地域に移住したい」という結果になっています。そう考えると神奈川県内からの移住のチャンスもあるのではないかと思います。

#### ○事務局(宮川)

- ・ 柱1は、経済を活性化して雇用を作るというところなのですが、これまでは、横須賀市に企業誘致して、雇用を作っていくという流れでした。ただ、お話にあったように、これからは、昔ながらの形ではなく、今の時代に合わせたやり方として、テレワーク等を意識して、すでに働いている人に横須賀に来てもらい、横須賀でテレワークしてもらおうという視点も必要になってくると感じています。これまでどおり、お金をかけて企業に来てもらうという形だと、横須賀は開かれたある程度の広さの土地もなく、大きな企業や工場の誘致というのは難しいです。そういった地理的状況からも、新しい視点をもった取り組みも検討していかなければならないと思っております。

#### ○工藤委員

- ・ 横須賀は人口減少に伴って、現在、職業の業種も少なくなっている状態だと思います。経済の停滞化という中で、雇用の創出というより、起業を増やす方向にして、業種数を増やしていくことが、ひとつの大きなポイントになっていくと思います。要は、横須賀で、消費行動が行われない現状から考えていくと、横須賀で生産や消費の経済が回る環境をつくっていくことが大切なことだと感じています。
- ・ それから、数値目標に新規求人倍率というのがあるのですが、実は、今年度の状況を見ても、高校生の新規求人倍率というのは、それほど変わっていない。新規求人倍率は、経済の状況によって大きく左右されるものなので、市が施策の数値目標に掲げても、施策の影響が明確に反映されない部分ではないかと思います。
- ・ 逆に、新規開業事業者数（開業支援により新規開業した事業所数）の目標値が30とありますが、実際に開業している数は、こんなに少ない数ではないです。税務署の統計でも、当所の支援状況を見ても、おそらく横浜銀行さんの創業支援、創業融資でも、それなりの数があると思います。新規開業に対する施策の充実という部分で、市でやっているのは融資とセミナーだけだと思いますので、もう少し多角的な支援、軌道にのるまでの長期的な支援という部分の充実といった施策を考えていくのがいいのではないかと感じています。

#### ○有吉委員

- ・ 7ページの「スポーツ合宿の誘致」についてです。予算措置は、今年度からだと思いますが、先行して今年の2月に、岩手県の富士大学の野球部が横須賀スタジアムで合宿をしています。こちらを取材したときに思ったのが、例えば練習試合などで、横須賀の学校と関われないか、しかも公開練習となれば、かなり目にとまるのではないかとということです。また、野球教室などを開催して地域活性化を図るということも考えられる。合宿の費用補助もいいですが、地域とのふれあいということで協力してもらうことも考えてもいいのではないかと思います。さらに横須賀で、合同合宿や練習試合をする機会を設定して、それに合わせて選手の家族向けツアーを組めば、全国からお客さんがくる。そういう仕掛けもできるのではないかと思います。

#### ○川名委員

- ・ 新型コロナウイルスの影響より、飲食店が非常に困窮していて、特に、個人的に心配なの

が、横須賀の代表的な観光地である、どぶ板です。どぶ板のレストランオーナーは、1人の方が4～5店舗くらい経営していますが、収入源で手離してしまうようなことになったら、大家さんはその土地を売却し、マンションが建ってしまう可能性があります。どぶ板のレストランを潰さないように知恵を出し合って何かできたらと思っています。

## (2) 柱4 歴史や文化を生かした賑わいの再興

### ○一條委員

- ・ 追浜駅は、京急久里浜や品川区にある青物横丁とほぼ同じくらい乗降がある駅です。また、地域資源も、働く場所もあり、非常にポテンシャルがあると認識をしています。
- ・ 今回の国道357号開通に備えた追浜夏島線の整備によって、抜け道になる道路は、交通量が増えることが想定され、混雑が予想されます。また、私どもの京急バスの乗降についても、安全性の面でも問題があると感じているので、追浜のまちづくりと一緒に進めさせていただきたいと思っています。
- ・ 追浜駅前の第2街区においても、地権者の方々は、自分たちの生活を守ることが第一で、街づくりを第一には、なかなか考えられない。横須賀中央の4街区も、我先にという気持ちで再開発をやると、建物が無秩序に乱立して、統一感のない街になってしまう。そういったことを危惧しています。横須賀市が中心となって、より広域的な観点からの街づくり、機能分担というのをやっていただきたいと思っています。
- ・ 市民アンケートの件ですが、通勤・通学の便が悪いと答えている一方で、交通の便がいいという意見もある。勤務地が自分たちの生活の側に戻ってくると、通勤・通学への抵抗は減って、交通の便の良さが光ってくる。そうすると、横須賀・三浦エリアの魅力は、さらに増すのではないかと思います。追浜だけでなく、広く協力して一緒に進めさせていただきたいと思っています。

### ○工藤委員

- ・ 追浜と久里浜は、人口増が続いている状態です。追浜は、ファミリー層の世帯も増えて、街自体も若返りをしている。さらに、ベイスターズの核ができたというのは、非常にいいことだと思っています。
- ・ ベイスターズについては、親会社が、DeNAになる前のTBSだった頃は、地域活性化という部分で、全面的に協力をいただいていた。例えば、冠ゲームをやらせてもらったり、始球式をやらせてもらったり、グラウンド内で事業者の紹介をさせてもらったりできました。DeNAが親会社になると、冠ゲームをやるにはいくらか、始球式するにはいくらか、すべてスポンサー契約のようなものに替わってきている。DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKAができたことは、非常にいいことだと思いますが、地域活性化や地域の産業連携という部分では、弱くなっているのではないかと懸念しています。ベイスターズサイドとそういった連携や協力を深めることも必要だと考えます。

### ○有吉委員

- ・ ベイスターズの件ですが、TBSがやっていたころは、番組紹介の発信などのためにやっていた部分があると感じます。DeNAは、非常にしっかりと会社で、距離感を感じる部分があるかと思いますが、TBSはTBS、DeNAはDeNAのやり方で、企業スタイルの違いによると思います。

#### ○石垣委員

- ・ 追浜では、追浜地域運営協議会が立ち上がっています。この協議会からも、ベイスターズに積極的にアプローチしていくことが必要だと思っております。
- ・ また、JAMSTECのような、追浜のいろんな業種の人に参画していただきながら、行政主体という形ではなく、地元の人が親しみを持って進めていくことが大切だと思います。運営協議会や地元町内会、地元のことをよく知っている方が積極的に動いてもらえるように取り組むといいと思います。

#### ○工藤委員

- ・ 追浜は、世界的な研究機関や企業が集積している地域です。そのことも市の施策でPRしていくことが大切だと思います。

#### ○事務局(宮川)

- ・ JAMSTECとは、海洋都市の推進に向けて様々な連携をとっています。今後も引き続き、海洋教育などの子ども向けイベントなども含めて、横須賀にこういう機関があるということを周知をしていきたいと思っています。
- ・ スポーツを核としたまちづくりをすすめ、まちの魅力づくりに取り組んでいくために、2018年にDeNAベイスターズと京浜急行電鉄と横須賀市で三者連携に関する基本協定を締結しています。この枠組みを活用して、三者共同でのグッズ作成やイベントなどを実施しているところです。地元商店街との関わりでは、残念ながら新型コロナウイルスの影響があり、中止となりましたが、今年度も、スタンプラリーの実施やサイン色紙のお店での展示、子どもとのキャッチボールの機会の創出などの企画を立てていました。そのほか、市の啓発用ポスターに選手の写真を起用させてもらったりもしています。一方で、事業担当課の話でも、DeNAは、確かにお金にシビアな側面を感じる部分もあるが、良く言えばしっかりとした企業であり、この点はDeNAの企業としての考えと認識しています。

#### ○工藤委員

- ・ 地元商店街とベイスターズをコーディネートする役割の人がいないと感じます。商店街で、グッズを売るといった話もなくなったり、横須賀でイベントゲームを年間6～7回やるといった話も違った形に切り替えられたりしています。行政のようなオフィシャルの立場の方がきちんと間に入って、地域の人たちとつないでいくことが、今後の課題ではないかと思っています。

#### ○小林委員

- ・ よこすかポートマーケットリニューアルについての発言です。個人的によこすかポートマーケットをよく利用していました。リニューアルに向けた調整を行っているようですが、リニューアルのときに、『Coaska Bayside Stores』のわくわく広場を参考にしてもらいたいと思います。わくわく広場では、地産地消のもの、横須賀のいろいろな飲食店のお弁当が購入できます。お弁当がきっかけで、次はこのお店にしてみようといったことにつながる可能性もあると思います。ポートマーケットでも、入っているテナントのお弁当だけでなく、いろんな飲食店のお弁当が購入できるようになるといいと思います。

#### ○事務局(宮川)

- ・ 運営事業者がいるので、基本的にはその運営事業者が、コンセプトを決めてテナント店を



決めていくことになると思いますが、横須賀の地元食材を使ったものを扱うことには、変りはないと思います。

#### ○川名委員

- ・ 歴史遺産の活用促進について、浦賀奉行所開設300周年記念事業の実施には、地元の歴史ファンの方々も巻き込んで作り込んでいただきたいと思います。浦賀の歴史に詳しい方々が、地元いらっしゃいます。江戸時代の浦賀が、廻船問屋などでにぎわっていた様子を下田と絡めて、VRで再現するといった方法もあると思います。
- ・ 日本に造船技術を伝えたフランス人技師・ティボディエの官舎、いわゆるティボディエ邸ですが、米海軍基地にあったときの周囲の景色や様子、例えば、教会やパン焼き工房、菊の紋章が彫られた池の話など、あまり知られていない歴史や写真についても再現したり、冊子に載せていただいたりできたらいいと思います。
- ・ 見せ方としても、工夫があってもいいと思います。例えば、福井県の朝倉氏の遺構のある一乗谷では、当時、そこに住んでいた人の恰好で観光案内しています。そういったことも参考に、アミューズメントパークのような要素をいれていただくと楽しいと思います。
- ・ 民間船会社による浦賀港クルーズの実施がありますが、イベントをする機会があったら、ペリーが来た時に、なぜ浦賀に入ってこなかったかといったような豆知識も話しながらのツアーや、当時の浦賀奉行所のバーチャル映像が船の上から見られるような工夫もあると楽しいと思います。

#### ○有吉委員

- ・ 浦賀奉行所開設300周年企画ということで、神奈川新聞社では「浦賀往来新聞」という紙面企画を月1回、2018年からやっています。自社企画ということで、市からの助成などなしに、紙面を刷り、市内の小・中学校に配ることもあります。ところが、また1年延期になってしまいどうしようかと思っているところです。弊社だけでなく、300周年に向けて他の媒体も、みんな手弁当で、いろいろ市の事業を応援している部分があると思います。そんな状況ですが、横須賀市の広報宣伝費は、どの部署でどう管理されているのでしょうか。

#### ○事務局(宮川)

- ・ 事業の広報については、事業費の中にあります。広報よこすかの中で広報する部分については、発行元の広報課です。基本的には、事業の広報は、事業ごとに予算がついています。

#### ○有吉委員

- ・ 広報戦略、宣伝戦略というのを、しっかり考えて発信していただきたいと思います。

#### ○川名委員

- ・ 商店街ツアーは割と人気があります。プライベートで、外国人と日本人が交流するイベントを企画して行っています。その経験から分かったことは、街を案内するだけでなく、歴史と絡めて案内すると、皆さんの興味も増えるということです。幕末の歴史、特に黒船来航時の歴史はアメリカ人に興味を持ってもらっています。なので、神奈川新聞の「浦賀往来新聞」の記事は、全国の歴史ファンの興味もそそると思います。

#### ○松尾委員

- ・ 資料2-2の(1)観光立市の推進についてです。京急線の中吊り広告では、三浦半島とい

う文字はたくさん見かけるのですが、横須賀市の文字はあまり見かけない気がしています。この観光立市というのは、横須賀市が単独で取り組もうということだと思いますが、地域資源を考えたとき、三浦半島とした方が、より観光客が魅力を感じるものが多いのではないかと思います。

- ・ 市外の人から見たときに、横須賀を一つの括りで見ると思いますが、例えば私が所属する市社会福祉協議会では市内を18の地区に分けて各地区の地域福祉活動を支援しており、各地区ともそれぞれに地域特性があります。横須賀を一括りでみるのではなく、いくつかの地区に分けてみると、その地区ならではの資源が見えてきますので、それを生かしていくのも面白いと思います。

#### ○事務局(宮川)

- ・ 三浦半島の連携という点では、県も含めた三浦半島観光連絡協議会という中で、三浦半島全体の観光といった切り口での売り込みも行っているところです。
- ・ 横須賀を、地域ごとに細分化した打ち出し方としては、西海岸において、海に特化した取り組みも現在、進めています。

#### ○馬場委員

- ・ こんな社会情勢ですので、関係人口の創出については、ここ2年ぐらいは、海外ではなく国内にシフトチェンジして、注力していったほうがよいと思います。
- ・ 国内の関係人口の創出方法として、地域の自然、歴史、文化などの観光資源を楽しむマイクロツーリズムの推進や、スポーツでのにぎわいづくりの創出なども必要だと思います。市民にあまり知られていない海洋資源、例えばJAMSTECなどは、積極的に周知・広報することが大切です。また、今、弊社で進めているのが、産官学で協力し、新しい観光コンテンツとしてのe-sportsの取り組みといったことも行っています。
- ・ 関係人口の創出には、「横須賀を知ってもらうこと」が重要だと思います。媒体だけに頼るのは、なかなか難しいので、市民全員が、観光大使として行動していくというような市民マインドがあるといいと思います。

#### ○川名委員

- ・ 馬場委員の発言に賛同しています。山梨県の新倉山浅間公園は、日本人がほとんど知らない地域ですが、外国人に非常に人気です。その場所をどうやって見つけたかという、外国人同士のSNSの写真を見て気になったというのが多いです。個人が発信したSNSをきっかけに人が動くという流れがありますので、市民全員が観光大使として行動するというのは、非常に大事だと思います。

#### ○有吉委員

- ・ 千葉県いすみ市は、“移住先進地域”として注目を集めています。「何で情報をとっているか」調べたところFBに出てくる広告などが多いです。SNS広告に加えチラシといったアナログな方法が役に立つこともあります。

#### ○安部委員

- ・ 文化会館近くの中央公園を最近工事しています。令和3年(2021年)には「みどりの愛護」のつどいも開催されるようですが、再興プランとはどんなかわりがありますか。

○事務局(宮川)

- ・ 再興プランに、(3) その他の重点施策といった項目があります。その施策の一つに「みどりの愛護のつどい推進事業」があります。

○小林委員

- ・ 市民アンケート報告書の18ページ「どこに転居したいですか」の設問に、約半分の方が横浜市と答えている。横浜市といっても広いので、横浜市のどのエリアを希望しているのかが分かると、憧れなのか、現実的に考えているのかなど、より詳細に比較ができると思います。もしあるのであれば伺いたいです。

○事務局(宮川)

- ・ 横浜市のどのエリアを希望しているかというデータはありません。

16時35分 閉会

第2回政策評価委員会会議の開催日時・場所を確認して閉会となった。

(以上)